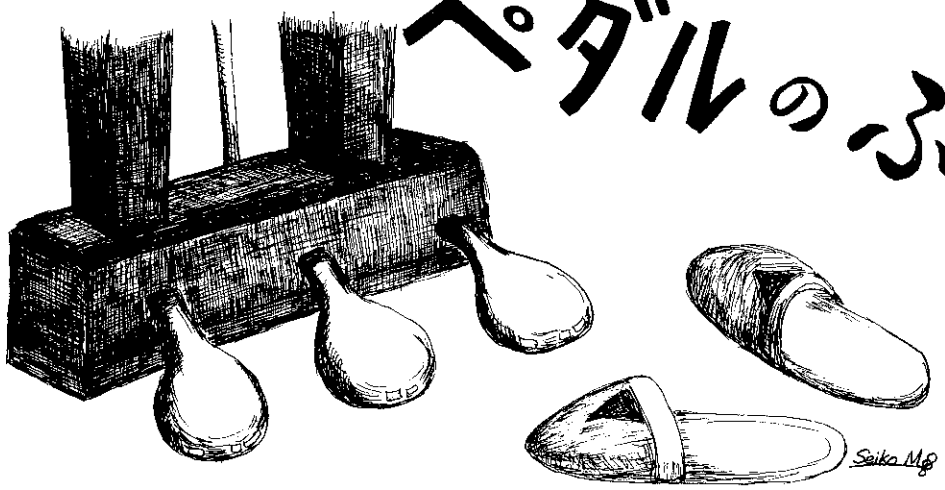
ペダルのふみ方



“かかとを床の上につけた両足を数センチ開いて静かにペダルの上に平行して載せます。足指で踏まず，足先から数センチ内部の足の裏でタッチするのがよいのです。左ペダルをあまり使用しないときには，左足だけペダルからはずし，手前にそっと揃えておき，必要なときにだけ前に出して踏めばよいでしょう。”

これは安田信子著「ピアノ・ペダルの踏み方」（音楽之友社）の中の“足と靴”の章にかかれている一節です。かかとを床につけること，この動作は簡単なようですが，成長段階の子供にとりましては，まだ安定さも欠け以外と難しい動作です。この基礎練習については，このシリーズの第11回「まほうのペダル」で書きましたが，今回はいろいろな効果と踏み方について考えてみましょう。

同著には次のように続けられています。

“練習時の自宅での履物はスリッパがよく，素足では，足指の先がすべってガタンとした雑音が出たときなどは興醒めしてしまいます。足先を敏感に，耳との連絡を密にし，弾く音のイメージを頭に描きながら，たびたび足さばきの練習をしましょう。

指導者のレッスン場の条件や，子供たちの自宅での練習条件によりいろいろなことが起こり得ると思いますが，子供たちにとってのよいペダル体験が受けられるよう指導者は心をくだいてあげるべきでしょう。

ピアノ・ペダルの歴史はどんなふうなのでしょう。ジョーゼフ・バノウェツ著「ピアノ・ペダルの技法」（音楽之友社）からみてみましょう。

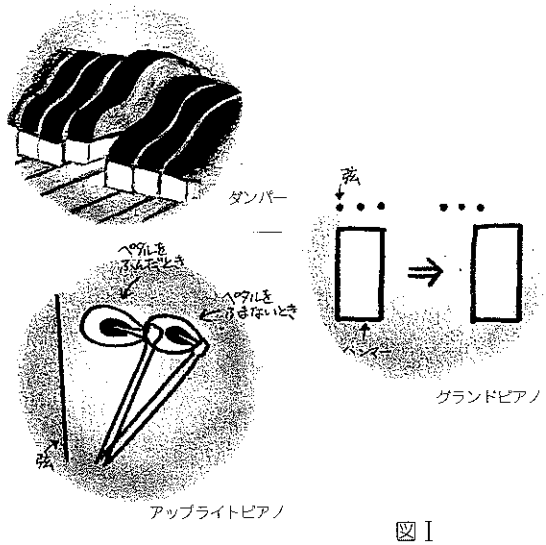
“現在ではほとんどのピアノに3本のペダルが装着してありますが，このペダルの発達課程はおよそ150年にもわたる複雑な成長課程をたどるのです。（中略）

クラヴィチェンバロ・コル・ピアノ・エ・フォルテと称する楽器，1709年にイタリアのフィレンツェでバルトロメオ・クリストフォリの手で制作されましたが，その響きはクラヴィコードやハープシコードの音にとてもよく似た音でした。クラヴィコードはメタル・タンジェントで，ハープシコードはジャックとクイルで発音していたのですが，それに代わって鹿皮を巻きつけたハンマーで打弦するようになっていました。1726年までにクリストフォリはこのような楽器を20台制作しました。

やがて，新しく発明されたハンマー打弦機構による強打に耐え得る強く大きな弦と反響板が装備されるようになりました。他のピアノ製作者，ゴットフリートーゼルバーマン，ヨハン・ツンペはクリストフォリの考えを踏襲し拡大してゆきました。そうして初期ピアノの響きの変遷が始まったのです。数十年の間にこの新しい楽器は初期のハープシコードにハンマーの付いた楽器という観念から遠ざかり，フォルテピアノはヨーロッパ大陸で急速に広まり，クラヴィコードやハープシコードは廃れていったのです。”

それではペダルのしくみについて，繁下和雄著，楽器のかがく「ピアノの音」からみることにしましょう。

（図Ⅰ）



図Ⅰ

つよい音やよわい音

“ピアノは手で演奏するだけでなく，足でも演奏するのです。足の部分にペダルという装置があって，これを足で踏むことによって音の変化をさせることができます。”のわかりやすい図がのっています。

では，3本ついているペダルの総称をまとめてみましょう。(「ピアノ・ペダルの踏み方」音楽之友社)

A. 右のペダルの名称(Dämpferpedal)

「増量ペダル」と呼ばれ，主としてヴォリュームをあげるペダルです。1. ヴォリューム・ペダル　2. ラウド・ペダル　3. ダンパー・ペダル

B. 左のペダルの名称(Verschiebungspedal)

「減量ペダル」と呼ばれヴォリュームを下げるペダルです。呼び名は，1. ソフト・ペダル　2. レフト・ペダル　3. 変異ペダル　4. u. c. (ウナ・コールダ)　5. シフティング・ペダル

C. 中央のペダルの名称(Prolongationpedal)

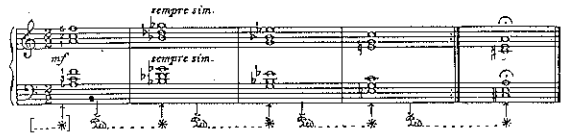
「保音ペダル」と呼ばれ，ある特定の音を保持するのに用いられ，その呼び名は　1. プロロングメント・ペダル　2. ソステヌート・ペダル　3. ミドル・ペダル

[注]　現在のアップライト・ピアノのピアニシモ・ペダルは「保音ペダル」とはまったく無関係でその仕掛けも異なります。(後略)

各々の役目をもった3本のペダル，名称とその役割はすぐ使うことはなくても子供たちにキチンと認識させたいものです。では最後にペダルの効果をみてみることにしましょう。

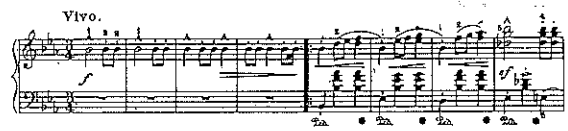
右のペダルで，一番多く用いられるのは，打鍵後に踏むシンコペート・ペダルです。打鍵して音を鳴らしてから足で踏むこのペダルは，手と足のリズム的な独立が必要とされます。また，和音をよりレガートにするためにも効果的に用いられます。(譜例1. 酒井忠政　夏期ピアノ集中セミナー'84より)

譜例1　　バルトーク：ミクロコスモス22



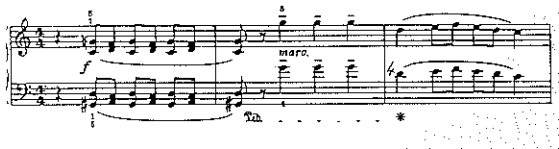
次に打鍵と同時のリズム・ペダルと呼ばれ，ワルツや行進曲に多く用いられます。また音色，或いは増音に効果的です。(譜例2)

譜例2　　ショパン：華麗なる大円舞曲



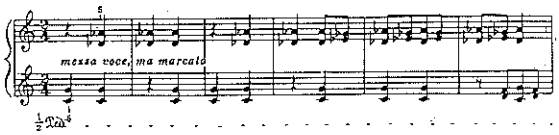
打鍵前のペダルは音響ペダルで，倍音による豊かな音量とヴィブラート効果を与えます。(譜例3)

譜例3　　バルトーク：ミクロコスモス83



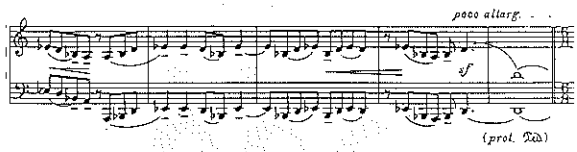
ハーフ(半)ペダルはペダルの踏み代を半分踏むことで，微妙な倍音効果を出します。(譜例4)

譜例4　　バルトーク：ミクロコスモス110



左のペダルは打鍵のあとすぐ踏むことで，鍵盤とハンマーが約2～3㎜右にすれ，音質，音色ともソフトな響きになります。(譜例5)

譜例5　　バルトーク：ミクロコスモスパリ島



さあいろいろな効果のある3本ペダル，こちらもペダルに負けないよう，頭と耳と手と足と全部使ってチャレンジです。